

ITOSUGI

いとすぎの丘



卒業式



入学式

Pick Up

日本赤十字社愛知県支部 創立130周年記念大会



昨年の12月12日(火)に、日本赤十字社愛知県支部創立130周年記念大会が開催されました。大会では本学の学生も会場案内や受付係として参会者の方々をご案内しました。また式典の終盤には学生達が「あこがれの赤十字」を合唱しました。



救護員研修

- 学長の言葉
- 大学行事
卒業式、入学式
- 大学の活動
生協設立のお知らせ
専門職向け研修会
災害救護演習IIに参加して
RCT☆LINK
タイ赤十字看護大学との交流を通じて
認証評価の受審について
- Information

大学・大学院で学ぶということ

学長 鎌倉 やよい



昨年は、冬季オリンピックとパラリンピックが韓国の平昌で開催されました。フィギュアスケートの羽生結弦選手の金メダルの2連覇は素晴らしく、意志の強さと自己をコントロールする能力の高さが際立っていました。多くの選手の活躍は記憶に新しいところですが、中でもスピードスケートの小平奈緒選手が金メダルを獲得した試合は印象的でした。

小平選手のタイムに沸く聴衆に対して、ライバルのレースへの配慮を促し、人差し指をそっと口に当てる小さな動作で、静かになるようにさりげなく求めています。インタビューでは、韓国で指導を受けるときには、相手を理解するために韓国語を学んだと話し、ライバルを尊敬する姿勢、ひたむきにスピードスケートに取り組み成果を出した意志の強さが印象に残りました。また、小平選手の所属が松本の相澤病院であることも驚きでした。

さて、看護師はチームとして機能することが多く、専門職として協働することと、専門職として理想や目標に向かって能力を十分に発揮することが求められます。これは、他者と調和しつつ自律する専門職として理想を追求することに他なりません。しかし、この両者を満たすことは、なかなか大変なことです。自己と他者の関係において、他者からどう見られているのか気に掛ける若者に会うことがあり、そのことが若者の自己としての生き方にも影響していることに気づかされます。オリンピックで活躍する若者の発言などから、良い意味で日本人も変化してきたと実感していたので、意外な感がありました。

私が2歳のころに出会った精神病理学的日本論としての書籍「人と人との間」（木村敏著）では、日本の特性として水平的に「人と人との間」からの拘束性に基づくこととされ、同様に社会学者の横山寧夫氏はこれらの特性を他律的拘束と表現していました。こういった日本の特性は現代の若者にも通ずる側面があるようです。知らず知らずに他者の評価に拘束されて、身動きが取れなくなっているのかもしれない。

こういった日本の特性を自覚して受け入れつつ、夢を実現するヒントが、先の小平選手の話にあるようです。明確な目標を持つこと、どうすべきかについて自分の考えを口に出して表現すること、地道な努力を重ねることが重要であり、「今の自分を超えていく」意志の強さを学びたいと思います。

そのためには、「大学や大学院で何を学ぶか、どのように学ぶか」を考えることが重要です。本来「学ぶ」ということは、正解を教えてもらうことではなく、なぜだろうと疑問の目を向けて「疑う」ことから始まります。つまり、真実を求めて自ら挑戦して確認するプロセスです。答えが一つとも限らず、答えが見つかるとも限りません。重要なことは、問題に取り組んで、自ら答えを見出す努力を続けることであり、柔軟に真剣に考えることそのものに意味があります。人と比較するのではなく、私がどう成長したのか、比較するのはこれまでの自分です。

また、問題を見出すことも、実は難しいことです。問題とは、理想の状態と現実の状態とのギャップであると言われていています。言い換えれば、理想がなければ、現実を良しとして何の疑問も出てはこないこととなります。学生の皆さん、専門職として私はどうありたいのか、どうぞ理想を描いて下さい。

看護学はとても魅力的な学問です。学生の皆さんが看護における理想を求め、学んで下さることを願っています。

ストレングスを活かして未来に輝け!

学部長 村瀬 智子

144名の卒業生、7名の修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

入学直後の新入生合宿研修やいとすぎ祭で育まれた同級生の絆、講義・演習におけるグループメンバー間の支え合いや実習における患者様や実習指導者の方々からの支援等、本学入学以来、多くの人々と触れ合い、さまざまな経験を積み重ねて、今の皆さんが在ります。

本学での歩みの終止符である卒業式・修了式での一人おひとりの目の輝きは、とてもまぶしく、誇らしさを感じました。本当によく頑張られたと思います。

専門職として自覚を持って進まなければならない卒業後の道は、つらいことも失敗することもあるでしょう。しかし、その時は、これまで、いろいろなことを乗り越えてきた自分自身のレジリエンス（回復力）を信じて、つらさを楽しみに変え、失敗を成功に変える努力をしてほしいと思います。たとえ苦手なことであっ



ても、臆することなく、いろいろなことにチャレンジしてみてください。そして、弱いところにこそストレングス（強み）があるという視点を大切にして、相手のストレングスを認め、自分のストレングスを活かしましょう。皆さんには、輝かしい未来が待っています。

どのような時にも、支えて下さる人や仲間が、きっと傍に居ると思います。皆さんの母校である本学も、いつも皆さんを応援しています。

皆さんのご健勝とご活躍を教職員一同、心からお祈り申し上げます。

赤十字看護師への第一歩

学部卒業生 大橋 美咲

本学では、赤十字の理念のもと、将来看護師として国内外の保健、医療、福祉の場で活躍できるための知識や技術を4年間かけて学びます。

1・2年では、看護学概論や基礎看護学技術を学び、はじめて看護に触れるとともに、生物的・心理的・霊的・社会的側面から人間を総合的にとらえ、人間をとりまく環境、健康についても学びます。2年からは臨地実習が始まります。赤十字の病院や地域の病院だけでなく、こども園や助産施設、介護保険福祉施設等で実習をさせていただき、様々な発達段階の方、様々な場所で必要とされる看護を学びます。4年時では、自身のより深めたい分野について研究し、より質の高い看護実践に役立てます。

本学のチューター制度では、教員の方々が学生生活に関する悩みや相談に応じてくださり、学生の個性に応じたより充実した学生生活に導いてくれます。

また、カリキュラムにある学びだけでなく、課外活動も活発に行っています。赤十字の大学であるため国内外のボランティアに関するサークルはもちろんのこと、スポーツを通じ、後輩先輩と親睦を深めることができます。看護だけでなく、自身の興味のあることにチャレンジしていくことで、人間的に成長することができます。

以上のように周囲のサポートの元、先生や仲間と協力しながら、それぞれが思い描く看護師像に向け、看護とは何か自分なりの答えや考えを深めていくことができると思います。



修士課程を終えて

大学院修了生 高木 知子

私は、20年間看護師として小児看護に携わりながら働いておりました。日頃の実践活動における小児看護を深めること、また、研究の知識・技術・手法を知るために大学院に進学しました。

大学院での授業では、領域や年齢の違う院生の方々と共に学び意見を交わしあい、また、学識と経験豊かな先生方のお話をうかがい、実践現場と少し距離をおいて学ぶ時間をもつことで、多くの気づきを得るきっかけになり、自分自身を成長させることができました。

私自身の研究では、「子どもと母親の睡眠と育児感情」をテーマに取り組み、研究過程において、自分自身の考えを的確に表現できず、幾度となく困難に直面しました。そのたびに、指導教授をはじめ多くの先生方のご指導やアドバイスにより前進することができました。

現代の少子社会が進む中で、未来を担う子どもたち一人ひとりの育ちを、社会全体で応援するためには、地域での子育て支援は重要です。今後も、子どもたちが健康で幸せであるために医療者である私たちに何が出来るのか、何をなすべきなのかを考え、看護の側面から実践していきたいと考えています。そして、看護の対象である人間を尊び、看護の発展に寄与できる教育・研究に取り組んでいきたいと思っています。

この度、修士課程を無事修了できた喜びとともに、院生の仲間や家族の協力、そして何より、ご支援いただいた先生方に深く感謝申し上げます。



看護学の世界によろこそ

研究科長 山田 聡子

麗らかな春の日差しの下、4月4日に入学式を挙行し、看護学部134名、大学院修士課程8名、大学院博士課程2名の入学生を迎えました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

看護学部に入学生した皆さんは、新しい環境に戸惑いながらも大学生活を楽しみ始めていることと思います。

大学院に入学生した皆さんは、学業と仕事、家事や育児との両立に努めながら、大学で再び学ぶ楽しさを感じていらっしゃると思います。

看護学は人を対象とする学問です。対象とするその人の生命を守り、生活を支え、より良く生きていただくための知識と技術を探求する学問です。人の尊厳を何より大切にすることが求められます。本学の建学の精神は赤十字の理念を基調とした人道を大原則としています。人の尊厳を大切にすることは人道に通じます。

しかし、それを実践することは容易なことではなく、時に自身の未熟さに直面することや非力さに悲しくなることがあるでしょう。そのような時こそ、本学で出会った友や教員と語り合い想いを分かち合ってください。そして、看護職者としてどうあるべきかを共に追求してください。

本学での学生生活を通して皆さんが成長することを期待しています。



憧れを現実に

学部新入生 安藤 綾梨

私は中学生の頃から、人と関わり人の役に立つ職業に就きたいと考えてきました。幼い頃、喘息で入院したことがあり、担当して下さった看護師さんは、不安な私を励まし、時には叱咤激励して下さいました。この看護師さんに出会って看護師という職業に興味を持ちました。それから看護師の厳しさや苦労だけでなく、やりがいがある仕事だということを知ったことで、将来の職業として目指すことにしました。



私は将来小児や周産期医療に関わる看護師という希望があります。子どもはまだ人生の経験が多くありません。生きることの素晴らしさを実感することはまだないと思います。私はそのような子どもたちに、自分の経験や私が看護師さんから教わったことを伝えるだけでなく、看護師になった私自身が前向きに仕事に取り組む姿を見てもらうことで前向きな気持ちになって欲しいと思います。

日本赤十字豊田看護大学で、「人道」という赤十字の理念を一から学び、患者さんとの向き合い方、接し方を学ぶことでどんな環境にでも通用する看護師を目指したいと思います。そのためにも一日一日を大切に、一生懸命努力をし続けていきます。

大学院進学について

大学院新入生 富田 美香

私は、大学卒業後小児病棟の看護師として働き、多くの患児家族と関わってきました。小児領域は、発達段階・疾患も様々であり、現代社会では家族の形態も多様化し、患児家族を取り巻く環境も日々変化している中で看護を提供してきました。時には難しい事例もあり、もっとよい介入ができたのではないかと、どのような看護を提供すべきか葛藤することもありました。その中で、今以上に個々の患児家族に寄り添った看護を提供するために、より専門的な知識を学びたいという思いが強くなり、小児専門看護師を目指すことを決意しました。大学院進学に伴い、仕事との両立や学費などの面で悩みましたが、職場の理解もあり、何より私自身が学びたいという思いが進学への強い決意となりました。



入学後は、幅広い視野で患者家族と関わる洞察力や知識を身につけたいと思っています。

仕事との両立は大変ではありますが、大学院で学んだ知識を基に患者家族に寄り添い、より最善な看護を提供できることを目指したいと思います。また、学んだことを職場でも還元し、小児看護を支える1人として、看護の向上に貢献したいと思っています。

仕事との両立は大変ではありますが、大学院で学んだ知識を基に患者家族に寄り添い、より最善な看護を提供できることを目指したいと思います。また、学んだことを職場でも還元し、小児看護を支える1人として、看護の向上に貢献したいと思っています。

生協設立のお知らせ

大学生協がはじまります

日本赤十字豊田看護大学生協 理事長 高見 精一郎

昨年12月に日本赤十字豊田看護大学生協の設立が認可され、今年度より食堂・売店の営業を開始します。従来の体制は取扱いメニュー・商品の偏りや、売店と事務局が履修に必要な物品の扱いを分担せざるを得な

いなど学生さんの利便を損なう点がありました。大学生協がこれらの業務を一本化し、さらに学内での購入が難しかった参考書類、共済保険等のサービスを加え充実した大学生活をお手伝いしてゆきたいと思いを。



大学生協の意義は「学生・教職員が共に参加し運営する」ことにあります。すでに設立前から学生理事の皆さんが他大学での生協の活動に触れたり、売店で扱う商品の要望調査を実施したりしています。大学に関わる全ての人が出資し意見を集めることでよりよい大学生協が実現するでしょう。是非多くの声をお聞かせください。スタッフ一同、最も良い形でお応えするよう努力いたします。

専門職向け研修会&ヘルス・プロモーション事業予定紹介

専門職向け研修会一覧

日本赤十字豊田看護大学では、今年度も主に看護師を中心とした専門職に従事する方を対象にした研修会を開催します。講座は全て有料となりますが、金額やお支払方法等の詳細は今後順次ホームページ上でお知らせします。ご不明な点等がある方は 企画・地域交流課 (TEL 0565-36-5228) までお問い合わせください。

題名	日時	講師
幼稚園・保育所に滞在する子どもが医療機関を受診する目安とは？	平成30年8月25日(土) 13:00~16:30	小児看護学 教授 大西 文子 准教授 岡田 摩理 講師 神道 那実 助教 遠藤 幸子
もう一度学びたい「看護過程」シリーズ ①アセスメント	平成30年9月29日(土) 10:00~12:00	基礎看護学 講師 竹内 貴子 准教授 中島 佳緒里 教授 山田 聡子
もう一度学びたい「看護過程」シリーズ ②看護診断から看護計画	平成30年10月6日(土) 10:00~12:00	
臨地実習指導のコツ ～理想の臨地実習指導者を目指そう!～	平成30年11月10日(土) 10:00~12:00	基礎看護学 教授 山田 聡子
母乳は本当に足りていないのか? ～母乳不良感の影響因子を考える～	平成31年2月16日(土) 13:30~15:00	母性看護学 教授 野口 眞弓 助教 村瀬 ゆかり
ストレスの視点を精神看護の実践に取り入れてみよう!	平成31年2月24日(日) 13:00~16:00	精神看護学 教授 村瀬 智子
はじめての看護研究	平成31年3月5日(火) 10:00~12:15	成人看護学 教授 東野 督子 老年看護学 教授 小林 尚司

災害救護演習Ⅱに参加して

災害救護演習に参加して

4年 土岐 香澄

災害救護演習Ⅱでは、防災航空隊や警察本部などが参加する救護員研修に傷病者役や家族役として参加します。この演習で私は、傷病者役を体験し、被災者の心のケアの重要性を学びました。傷病者役の立場になって一番感じたことは「早く助けてほしい」「私の

そばを離れないでほしい」「私は大丈夫なのかな」という不安と恐怖でした。急性期の災害医療では、一人でも多くの被災者の命を救うことが最優先されます。しかし今回の体験から、被災者の不安や恐怖を傾聴し寄り添うという心のケアを行う能力も必要であると学びました。



災害看護においては、人的・物的に制限された災害現場で創造的に看護実践を開発する能力が必要とされます。災害は予期せぬものであるため、常に災害看護を意識し、必要な能力を磨き続けることは難しいかもしれません。しかし、今回の体験を機に、自分自身の災害時の備えについて振り返り準備するとともに、将来看護師として災害救護に携わる際には心のケアにも目を向けられるよう、日々の看護に励んでいきたいと思えます。

注：学年は参加当時のものです

RCT☆LINK

仲間存在について

3年 瓜田 琴子

入学して早くも二年が経ちました。私はこの二年間、毎日の授業はもちろん、サークル活動や学外の活動などを通して多くのことを学ぶことができます。このように私が興味のあることに全力で挑戦し、貴重な経験をすることができるのは、毎日同じ日々を過ごし支えてくれている仲間のおかげであると常に感じています。私の友達には、私が辛いと感じていても周囲に頼ることができないときに、さりげなく優しい声をかけてくれて助けてくれます。また、日々の生活の中でいつも笑顔にさせてくれるので、私は本当に毎日楽しく過ごすことができます。

私の周りには、自分のやりたい事をしっかりと見つけ、夢のために努力している素敵な仲間がたくさんいます。私にとって、このような仲間の存在はとても刺激になり自分も頑張ろうと思える大きな要因の一つとなっています。この学校での生活もあと二年と折り返し地点に来た

今、改めて周りの仲間たちに対する感謝の心を常に忘れずに、大好きな仲間たちと助け合いながら、これからも様々なことを乗り越えていきたいです。



次回 RCT LINK 2年 西川 玖美

タイ赤十字看護大学との交流を通じて

タイ赤十字看護大学との交流を通じて

1年 ラナ・テヤ

今回の交流会では、互いの文化を紹介し合いました。一緒に折り紙を折ったり、浴衣を着せたり、タイの伝統的な踊りを踊ったりしました。1番印象に残っていたのはタイの伝統的なお菓子を試食した時でした。日本のお菓子よりもはるかに甘く驚きました。また、タ

イ人学生が特に目を輝かせていたのは自分の名前を当て字にした時で、とても嬉しそうにしていました。タイ赤十字看護大学との交流を通じてどんな国籍の人同士でも互いの文化を知ることによって理解し合えることを学びました。理解する過程では言葉の壁を感じる場面もありました。しかし、言語によるコミュニケーションだけでなく表情やジェスチャーなどで心から楽しもう、学ぼうとすればそれが相手に伝わり相手もそれに応えようとすることを学んだ貴重な機会でした。



認証評価の受審について

大学認証評価を飛躍のチャンスに

学部長 村瀬 智子

大学は、教育研究活動に関する内部質保証を維持・発展させるために、7年に1回、認証評価を受審する責務があります。本学は、開学7年目にあたる平成22年度に第1回の評価を受けましたので、平成29年度が第2回の評価受審の年でした。

そこで、平成28年度から鎌倉新学長のリーダーシップの基に、第1回受審後の課題を見直し、[基準1]の理念・目的から、[基準2]教育研究組織、[基準3]教員・教員組織、[基準4]教育内容・方法・成果、[基準5]学生の受け入れ、[基準6]学生支援、[基準7]教育研究等環境、[基準8]社会連携・社会貢献、[基準9]管理運営・財務、[基準10]内部質保証までの10の基準について評価を行い、内部質保証システム体系図や評価体制図の構築をはじめ、運営組織図の改編や各種規程の整備に精力的に取り組み、報告書を提出すると共に、昨年10月には実地調査を受けました。

平成30年3月に評価結果が届き、いずれの基準も概ねA評価を受け、「大学評価基準に適合している」と認定されました。

この評価結果を基に、さらに教職員一丸となって、本学の教育研究活動の飛躍を目指して取り組んで参ります。

引き続き、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



Information

平成30年度入学試験結果

学部 入試区分	定員	志願者数	受験者数	正規格者数	実質倍率	入学者数
一般入試	50	308(23)	289(20)	96(9)	3.0	65(5)
センター利用入試(前期)	5	168(7)	168(7)	56(1)	3.0	9(2)
センター利用入試(後期)	3	18(1)	17(1)	6(0)	2.8	4(0)
高等学校長推薦入試	30	45(2)	45(2)	31(1)	1.5	30(1)
日赤中部各県支部長推薦入試	30	28(1)	28(1)	26(1)	1.1	26(1)
社会人特別選抜入試	2	1(0)	1(0)	0		0
計	120	568(34)	548(31)	215(12)	2.5	134(9)

学部 入試区分	定員	志願者数	受験者数	正規格者数	実質倍率	入学者数	
大学院入試(修士課程)	前期	10	8(3)	8(3)	7(3)	1.0	7(3)
	後期		1(0)	1(0)	1(0)	1.0	1(0)
大学院入試(博士課程)	2	2(0)	2(0)	2(0)	1.0	2(0)	

※()内は男子学生数再掲。倍率は小数点以下第二位を四捨五入。

大学院入試(博士課程)定員は北海道・秋田・広島・九州と本学合わせて計10名。平成30年度の本学定員は2名。

平成30年度一般向け公開講座一覧

領域	日時	講座名	内容
専門基礎	平成30年6月9日(土) 10:00~12:00	健康になる生活習慣	どのような生活習慣が歯や口の健康と関係しているのかを紹介し、これらの生活習慣が全身の健康とつながっていることをお話しします。
公衆衛生看護学・在宅看護学	平成30年6月30日(土) 13:30~15:30	自分のからだを知ろう ~宮口一色健康測定会~	地域で健康に暮らし続けられるよう、骨量や身体の柔軟性などの健康測定、誤嚥予防のための講座や体操などを行います。
	平成31年2月中旬頃	高齢者の健康づくり 宮口上区または一色地区	地域で健康に暮らし続けられるよう、日々の生活に役立つ健康講座や誤嚥予防の体操などを行います。
母性看護学	平成30年11月17日(土) 10:00~11:30	癒しのアロマセラピー	アロマセラピーの説明をして、芳香浴、ハンドマッサージを行います。アロママッサージでリフレッシュしましょう!
精神看護学	平成30年12月8日(土) 14:00~16:00	第2回こころの健康づくりシンポジウム ~健康と病と芸術~	「健康と病と芸術」をテーマに、こころの健康と芸術のつながりについて、医学・工学・看護・音楽(バイオリン演奏)という異分野のコラボレーションから体験的に学びます。
赤十字・災害看護学	平成31年2月16日(土) 10:00~11:00	AEDを知ろう	身近にあるAEDを知り、もし緊急時に遭遇した時の対応を考えます。
成人看護学	平成31年3月8日(金) 10:00~12:15	転倒予防~運動器症候群(ロコモティブシンドローム)について知ろう~	ロコモティブシンドローム(通称ロコモ)についての説明、自己評価(ロコモ度テスト)、ロコモを防ぐ運動(ロコトレ)の紹介をします。
老年看護学	平成31年3月11日(月) 10:00~11:30	手軽にできる認知症ケア ~家族で回想のすずめ~	認知症についての理解を深め、家族でできる回想の効果や方法についてお伝えします。

いとすぎ祭&オープンキャンパス

○第15回いとすぎ祭

開催日：平成30年5月26日(土)
場所：本学
内容：模擬店、ステージショー、ヘルスチェック、フリーマーケット、献血 他

○オープンキャンパスmini

開催日：平成30年5月26日(土) ※いとすぎ祭と同時開催

○オープンキャンパス2018

開催日時：①平成30年7月21日(土) 10:00~15:00
②平成30年8月17日(金) 10:00~15:00
参加方法：ホームページの申込みフォームからお申込み下さい(順次公開)
もしくは企画・地域交流課 0565-36-5228 まで

平成30年度新任教員

准教授	長田知恵子	母性看護学	講師	金盛 琢也	老年看護学
准教授	岡田 摩理	小児看護学	助手	近藤 香苗	老年看護学
講師	巻野 雄介	基礎看護学			

平成30年度新任職員

事務局長	山田 誠
経理課	堀田真理子
企画・地域交流課	奥 映理菜

編集後記

この冬は例年になく寒さで、豪雪のニュースが毎日のように報道されていましたが、この頃は、暖かな春の陽射しに包まれて爽やかな季節到来です。新入生の皆さんは入学から1か月が経ち、少し大学にも慣れてこれたのではないのでしょうか。学生生活を楽しく、有意義に過ごしてください。

「いとすぎの丘」Vol.27では、卒業式、入学式の様子や、災害救護演習、タイ赤十字看護大学との交流などについて紹介しております。ご執筆をお引き受けくださった皆様に感謝申し上げます。これからも、大学の取り組みや活動などをどんどん発信してまいります。皆様からのご投稿もお待ちしております。

いとすぎの丘 Vol.27

発行日/2018年5月

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学

入試・広報委員会、企画・地域交流課

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228 FAX 0565-36-5256

E-Mail kikaku-ka@rctoyota.ac.jp

HP <http://www.rctoyota.ac.jp/>